



2019行政提案型協働モデル事業

認知症サポーター ステップアップ事業 事業報告

2019. 3. 25

認知症を考える会
あいづの種

ステップアップ講座

第1回

【開催日時】令和元年7月13日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症を正しく知る」

認知症介護指導者

第2回

【開催日時】令和元年8月10日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症の人を介護する家族の気持ち」

認知症介護指導者



第3回

【開催日時】令和元年 9月14日(土)

【受講者数】15名

【内容】「健康を考えた美味しい食事」管理栄養士

第4回

【開催日時】令和元年10月12日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症に人を支える専門職・・・言語聴覚士」



第5回

【開催日時】令和元年11月9日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「介護保険法」生活支援コーディネーター

第6回

【開催日時】令和元年12月14日(土) 11:00～12:30

【受講者数】13名

【内容】「認知症の方を地域で支える」社会福祉士

第7回

【開催日時】令和2年1月11日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「認知症と薬」薬剤師

第8回

【開催日時】令和2年2月8日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「認知症になっても大丈夫」精神科医師



ステップアップ講座の効果

つながる

- サポーターとさまざまな専門職とがつながる機会

相互効果

- フラットな関係での対話
- さまざまな職種から捉える認知症

カフェ体験

- サポーター同士の交流の場
- 専門職を交えた意見交換の場
- 当事者と出会う機会

副産物

地域ネットワークボ
ランティア登録

サロンの立ち上げ



認知症高齢者宅を
訪問、周囲に理解
を促すなど積極的
に活動



会津若松市行政提案型協働モデル事業

第3回認知症を考える会あいつの種講演会

「笑顔で生きる」

講師 丹野智文氏

アルツハイマー病などによる認知症は、すぐに進行するわけではありません。それを伝えるには、6年前に診断を受けた私が、今も笑顔で元気に過ごしていることを知ってもらうのが一番です。



「僕、認知症です。」

「ご本人の話聞いて認知症を正しく理解する」

プロフィール

1974年、宮城県生まれ。2013年に認知症と診断される。2014年には、全国の認知症の仲間とともに、国内初の当事者団体「日本認知症ワーキンググループ」を設立。2015年から、不安を持つ認知症の人が、当事者の相談を受ける「おれんじドア」を仙台市内で毎月開催している。

日時

2019年10月17日(木)

午後1時30分～午後3時30分 開場午後1時00分

場所

会津若松市文化センター 文化ホール
(会津若松市城東町14-52)

参加

無料 申込不要
先着順400名

【お問い合わせ先】

認知症を考える会 あいつの種 担当:遠藤(デイスーパービスOASIS2号館内)

Tel:0242-27-5533 fax:0242-27-5550 E-Mail:oasis.2@takeda.or.jp

認知症講演会

【開催日時】

令和2年10月17日(木)

13:30～15:30

【演題】「笑顔で生きる」

【講師】おれんじドア代表
丹野智文氏

【会場】

会津若松市文化センター
文化ホール

【参加者数】430名

丹野氏からのメッセージ

- 「認知症を正しく理解して欲しい」
- 「何でもないように見えるが、実は大きなハンデがあることを理解して欲しい」
- 「たとえ認知症があっても自分のことは自分で決めるという当たり前のことを奪わないようにして欲しい」
- 「世間では、認知症になると何もわからなくなる、何もできなくなるという偏見がある。だからと言って完全に払しょくすることはできない。だったら、目の前のたった一人のひとを幸せにしてあげて欲しい」

講演会の効果

関心

- 大勢の市民の方が関心を持って参加してくれた

偏見

- 認知症への偏見に気づいてもらうことができた

安心

- 認知症を正しく理解して備えていくということの大切さ
- 一人一人の安心が安心して暮らせる街づくりに

土曜の音楽カフェ視察研修

【開催日時】令和元年9月8日(土)10:30～18:30

【場所】宮城県仙台市青葉区国見1-19-1

東北福祉大学ステーションキャンパス3階ステーションカフェ

【参加者数】受講者12名、市1名、たねスタッフ2名



視察内容

- 認知症サポーターがどのように認知症カフェの運営に参画しているかを見学させていただきました。カフェは、120名を超える来場者で大変賑やかでした。受講生の皆さんはテーブルに散らばって、現地の認知症サポーターさんと交流したり、当事者や家族との対話を体験したりしました。
- 認知症サポーターさんがこだわりのあるおいしい飲み物を作って提供する姿や来場者が来るとすぐに傍によって話し相手をする様子などは、大変参考になりました。
- ミニ講話では若年性認知症の方の話聞くことが出来ました。受講生の皆さんは、「子供たちにも認知症のことを伝えることが大事だ。誰がいつ認知症になるかわからない。その時に慌てずに受け入れられるように周りもしっかりと勉強しよう。」と話し合いました。
- どうやって実現したらよいのか考えあぐねていると、東北福祉大学の矢吹教授から、「みなさんが認知症キャラバンメイトになれば、子どもたちに伝えることができますよ。」というアドバイスをいただきました。また、市民レベルでキャラバンメイトを育成していくことが今後の課題だというお話も伺いました。

認知症カフェ視察研修の効果

参画

- 認知症サポーターのカフェへの参画の様子が、今後のカフェにおける実践活動に大変参考になった

実感

- 認知症の正しい知識を子どもたちに伝えていく重要性を知った

気づき

- 認知症サポーターがキャラバンメイトにステップアップすることで新たな役割ができる

カフェ実習



ご清聴ありがとうございました





2019行政提案型協働モデル事業

認知症サポーター ステップアップ事業 事業報告

2019. 3. 25

認知症を考える会
あいづの種

ステップアップ講座

第1回

【開催日時】令和元年7月13日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症を正しく知る」

認知症介護指導者

第2回

【開催日時】令和元年8月10日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症の人を介護する家族の気持ち」

認知症介護指導者



第3回

【開催日時】令和元年 9月14日(土)

【受講者数】15名

【内容】「健康を考えた美味しい食事」管理栄養士

第4回

【開催日時】令和元年10月12日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症に人を支える専門職・・・言語聴覚士」



第5回

【開催日時】令和元年11月9日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「介護保険法」生活支援コーディネーター

第6回

【開催日時】令和元年12月14日(土) 11:00～12:30

【受講者数】13名

【内容】「認知症の方を地域で支える」社会福祉士

第7回

【開催日時】令和2年1月11日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「認知症と薬」薬剤師

第8回

【開催日時】令和2年2月8日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「認知症になっても大丈夫」精神科医師



ステップアップ講座の効果

つながる

- サポーターとさまざまな専門職とがつながる機会

相互効果

- フラットな関係での対話
- さまざまな職種から捉える認知症

カフェ体験

- サポーター同士の交流の場
- 専門職を交えた意見交換の場
- 当事者と出会う機会

副産物

地域ネットワークボ
ランティア登録

サロンの立ち上げ



認知症高齢者宅を
訪問、周囲に理解
を促すなど積極的
に活動



会津若松市行政提案型協働モデル事業

第3回認知症を考える会あいつの種講演会

「笑顔で生きる」

講師 丹野智文氏

アルツハイマー病などによる認知症は、すぐに進行するわけではありません。それを伝えるには、6年前に診断を受けた私が、今も笑顔で元気に過ごしていることを知ってもらうのが一番です。



「僕、認知症です。」

「ご本人の話聞いて認知症を正しく理解する」

プロフィール

1974年、宮城県生まれ。2013年に認知症と診断される。2014年には、全国の認知症の仲間とともに、国内初の当事者団体「日本認知症ワーキンググループ」を設立。2015年から、不安を持つ認知症の人が、当事者の相談を受ける「おれんじドア」を仙台市内で毎月開催している。

日時

2019年10月17日(木)

午後1時30分～午後3時30分 開場午後1時00分

場所

会津若松市文化センター 文化ホール
(会津若松市城東町14-52)

参加

無料 申込不要
先着順400名

【お問い合わせ先】

認知症を考える会 あいつの種 担当:遠藤(デイスーパービスOASIS2号館内)

Tel:0242-27-5533 fax:0242-27-5550 E-Mail:oasis.2@takeda.or.jp

認知症講演会

【開催日時】

令和2年10月17日(木)

13:30～15:30

【演題】「笑顔で生きる」

【講師】おれんじドア代表
丹野智文氏

【会場】

会津若松市文化センター
文化ホール

【参加者数】430名

丹野氏からのメッセージ

- 「認知症を正しく理解して欲しい」
- 「何でもないように見えるが、実は大きなハンデがあることを理解して欲しい」
- 「たとえ認知症があっても自分のことは自分で決めるという当たり前のことを奪わないようにして欲しい」
- 「世間では、認知症になると何もわからなくなる、何もできなくなるという偏見がある。だからと言って完全に払しょくすることはできない。だったら、目の前のたった一人のひとを幸せにしてあげて欲しい」

講演会の効果

関心

- 大勢の市民の方が関心を持って参加してくれた

偏見

- 認知症への偏見に気づいてもらうことができた

安心

- 認知症を正しく理解して備えていくということの大切さ
- 一人一人の安心が安心して暮らせる街づくりに

土曜の音楽カフェ視察研修

【開催日時】令和元年9月8日(土)10:30～18:30

【場所】宮城県仙台市青葉区国見1-19-1

東北福祉大学ステーションキャンパス3階ステーションカフェ

【参加者数】受講者12名、市1名、たねスタッフ2名



視察内容

- 認知症サポーターがどのように認知症カフェの運営に参画しているかを見学させていただきました。カフェは、120名を超える来場者で大変賑やかでした。受講生の皆さんはテーブルに散らばって、現地の認知症サポーターさんと交流したり、当事者や家族との対話を体験したりしました。
- 認知症サポーターさんがこだわりのあるおいしい飲み物を作って提供する姿や来場者が来るとすぐに傍によって話し相手をする様子などは、大変参考になりました。
- ミニ講話では若年性認知症の方の話聞くことが出来ました。受講生の皆さんは、「子供たちにも認知症のことを伝えることが大事だ。誰がいつ認知症になるかわからない。その時に慌てずに受け入れられるように周りもしっかりと勉強しよう。」と話し合いました。
- どうやって実現したらよいのか考えあぐねていると、東北福祉大学の矢吹教授から、「みなさんが認知症キャラバンメイトになれば、子どもたちに伝えることができますよ。」というアドバイスをいただきました。また、市民レベルでキャラバンメイトを育成していくことが今後の課題だというお話も伺いました。

認知症カフェ視察研修の効果

参画

- 認知症サポーターのカフェへの参画の様子が、今後のカフェにおける実践活動に大変参考になった

実感

- 認知症の正しい知識を子どもたちに伝えていく重要性を知った

気づき

- 認知症サポーターがキャラバンメイトにステップアップすることで新たな役割ができる

カフェ実習



ご清聴ありがとうございました





2019行政提案型協働モデル事業

認知症サポーター ステップアップ事業 事業報告

2019. 3. 25

認知症を考える会
あいづの種

ステップアップ講座

第1回

【開催日時】令和元年7月13日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症を正しく知る」

認知症介護指導者

第2回

【開催日時】令和元年8月10日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症の人を介護する家族の気持ち」

認知症介護指導者



第3回

【開催日時】令和元年 9月14日(土)

【受講者数】15名

【内容】「健康を考えた美味しい食事」管理栄養士

第4回

【開催日時】令和元年10月12日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症に人を支える専門職・・・言語聴覚士」



第5回

【開催日時】令和元年11月9日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「介護保険法」生活支援コーディネーター

第6回

【開催日時】令和元年12月14日(土) 11:00～12:30

【受講者数】13名

【内容】「認知症の方を地域で支える」社会福祉士

第7回

【開催日時】令和2年1月11日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「認知症と薬」薬剤師

第8回

【開催日時】令和2年2月8日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「認知症になっても大丈夫」精神科医師



ステップアップ講座の効果

つながる

- サポーターとさまざまな専門職とがつながる機会

相互効果

- フラットな関係での対話
- さまざまな職種から捉える認知症

カフェ体験

- サポーター同士の交流の場
- 専門職を交えた意見交換の場
- 当事者と出会う機会

副産物

地域ネットワークボ
ランティア登録

サロンの立ち上げ



認知症高齢者宅を
訪問、周囲に理解
を促すなど積極的
に活動



会津若松市行政提案型協働モデル事業

第3回認知症を考える会あいつの種講演会

「笑顔で生きる」

講師 丹野智文氏

アルツハイマー病などによる認知症は、すぐに進行するわけではありません。それを伝えるには、6年前に診断を受けた私が、今も笑顔で元気に過ごしていることを知ってもらうのが一番です。



「僕、認知症です。」

「ご本人の話聞いて認知症を正しく理解する」

プロフィール

1974年、宮城県生まれ。2013年に認知症と診断される。2014年には、全国の認知症の仲間とともに、国内初の当事者団体「日本認知症ワーキンググループ」を設立。2015年から、不安を持つ認知症の人が、当事者の相談を受ける「おれんじドア」を仙台市内で毎月開催している。

日時

2019年10月17日(木)

午後1時30分～午後3時30分 開場午後1時00分

場所

会津若松市文化センター 文化ホール
(会津若松市城東町14-52)

参加

無料 申込不要
先着順400名

【お問い合わせ先】

認知症を考える会 あいつの種 担当:遠藤(デイスーパービスOASIS2号館内)

Tel:0242-27-5533 fax:0242-27-5550 E-Mail:oasis.2@takeda.or.jp

認知症講演会

【開催日時】

令和2年10月17日(木)

13:30～15:30

【演題】「笑顔で生きる」

【講師】おれんじどあ代表
丹野智文氏

【会場】

会津若松市文化センター
文化ホール

【参加者数】430名

丹野氏からのメッセージ

- 「認知症を正しく理解して欲しい」
- 「何でもないように見えるが、実は大きなハンデがあることを理解して欲しい」
- 「たとえ認知症があっても自分のことは自分で決めるという当たり前のことを奪わないようにして欲しい」
- 「世間では、認知症になると何もわからなくなる、何もできなくなるという偏見がある。だからと言って完全に払しょくすることはできない。だったら、目の前のたった一人のひとを幸せにしてあげて欲しい」

講演会の効果

関心

- 大勢の市民の方が関心を持って参加してくれた

偏見

- 認知症への偏見に気づいてもらうことができた

安心

- 認知症を正しく理解して備えていくということの大切さ
- 一人一人の安心が安心して暮らせる街づくりに

土曜の音楽カフェ視察研修

【開催日時】令和元年9月8日(土)10:30～18:30

【場所】宮城県仙台市青葉区国見1-19-1

東北福祉大学ステーションキャンパス3階ステーションカフェ

【参加者数】受講者12名、市1名、たねスタッフ2名



視察内容

- 認知症サポーターがどのように認知症カフェの運営に参画しているかを見学させていただきました。カフェは、120名を超える来場者で大変賑やかでした。受講生の皆さんはテーブルに散らばって、現地の認知症サポーターさんと交流したり、当事者や家族との対話を体験したりしました。
- 認知症サポーターさんがこだわりのあるおいしい飲み物を作って提供する姿や来場者が来るとすぐに傍によって話し相手をする様子などは、大変参考になりました。
- ミニ講話では若年性認知症の方の話聞くことが出来ました。受講生の皆さんは、「子供たちにも認知症のことを伝えることが大事だ。誰がいつ認知症になるかわからない。その時に慌てずに受け入れられるように周りもしっかりと勉強しよう。」と話し合いました。
- どうやって実現したらよいのか考えあぐねていると、東北福祉大学の矢吹教授から、「みなさんが認知症キャラバンメイトになれば、子どもたちに伝えることができますよ。」というアドバイスをいただきました。また、市民レベルでキャラバンメイトを育成していくことが今後の課題だというお話も伺いました。

認知症カフェ視察研修の効果

参画

- 認知症サポーターのカフェへの参画の様子が、今後のカフェにおける実践活動に大変参考になった

実感

- 認知症の正しい知識を子どもたちに伝えていく重要性を知った

気づき

- 認知症サポーターがキャラバンメイトにステップアップすることで新たな役割ができる

カフェ実習



ご清聴ありがとうございました





2019行政提案型協働モデル事業

認知症サポーター ステップアップ事業 事業報告

2019. 3. 25

認知症を考える会
あいづの種

ステップアップ講座

第1回

【開催日時】令和元年7月13日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症を正しく知る」

認知症介護指導者

第2回

【開催日時】令和元年8月10日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症の人を介護する家族の気持ち」

認知症介護指導者



第3回

【開催日時】令和元年 9月14日(土)

【受講者数】15名

【内容】「健康を考えた美味しい食事」管理栄養士

第4回

【開催日時】令和元年10月12日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症に人を支える専門職・・・言語聴覚士」



第5回

【開催日時】令和元年11月9日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「介護保険法」生活支援コーディネーター

第6回

【開催日時】令和元年12月14日(土) 11:00～12:30

【受講者数】13名

【内容】「認知症の方を地域で支える」社会福祉士

第7回

【開催日時】令和2年1月11日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「認知症と薬」薬剤師

第8回

【開催日時】令和2年2月8日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「認知症になっても大丈夫」精神科医師



ステップアップ講座の効果

つながる

- サポーターとさまざまな専門職とがつながる機会

相互効果

- フラットな関係での対話
- さまざまな職種から捉える認知症

カフェ体験

- サポーター同士の交流の場
- 専門職を交えた意見交換の場
- 当事者と出会う機会

副産物

地域ネットワークボ
ランティア登録

サロンの立ち上げ



認知症高齢者宅を
訪問、周囲に理解
を促すなど積極的
に活動



会津若松市行政提案型協働モデル事業

第3回認知症を考える会あいつの種講演会

「笑顔で生きる」

講師 丹野智文氏

アルツハイマー病などによる認知症は、すぐに進行するわけではありません。それを伝えるには、6年前に診断を受けた私が、今も笑顔で元気に過ごしていることを知ってもらうのが一番です。



「僕、認知症です。」

「ご本人の話聞いて認知症を正しく理解する」

プロフィール

1974年、宮城県生まれ。2013年に認知症と診断される。2014年には、全国の認知症の仲間とともに、国内初の当事者団体「日本認知症ワーキンググループ」を設立。2015年から、不安を持つ認知症の人が、当事者の相談を受ける「おれんじドア」を仙台市内で毎月開催している。

日時

2019年10月17日(木)

午後1時30分～午後3時30分 開場午後1時00分

場所

会津若松市文化センター 文化ホール
(会津若松市城東町14-52)

参加

無料 申込不要
先着順400名

【お問い合わせ先】

認知症を考える会 あいつの種 担当:遠藤(デイスーパービスOASIS2号館内)

Tel:0242-27-5533 fax:0242-27-5550 E-Mail:oasis.2@takeda.or.jp

認知症講演会

【開催日時】

令和2年10月17日(木)

13:30～15:30

【演題】「笑顔で生きる」

【講師】おれんじどあ代表
丹野智文氏

【会場】

会津若松市文化センター
文化ホール

【参加者数】430名

丹野氏からのメッセージ

- 「認知症を正しく理解して欲しい」
- 「何でもないように見えるが、実は大きなハンデがあることを理解して欲しい」
- 「たとえ認知症があっても自分のことは自分で決めるという当たり前のことを奪わないようにして欲しい」
- 「世間では、認知症になると何もわからなくなる、何もできなくなるという偏見がある。だからと言って完全に払しょくすることはできない。だったら、目の前のたった一人のひとを幸せにしてあげて欲しい」

講演会の効果

関心

- 大勢の市民の方が関心を持って参加してくれた

偏見

- 認知症への偏見に気づいてもらうことができた

安心

- 認知症を正しく理解して備えていくということの大切さ
- 一人一人の安心が安心して暮らせる街づくりに

土曜の音楽カフェ視察研修

【開催日時】令和元年9月8日(土)10:30～18:30

【場所】宮城県仙台市青葉区国見1-19-1

東北福祉大学ステーションキャンパス3階ステーションカフェ

【参加者数】受講者12名、市1名、たねスタッフ2名



視察内容

- 認知症サポーターがどのように認知症カフェの運営に参画しているかを見学させていただきました。カフェは、120名を超える来場者で大変賑やかでした。受講生の皆さんはテーブルに散らばって、現地の認知症サポーターさんと交流したり、当事者や家族との対話を体験したりしました。
- 認知症サポーターさんがこだわりのあるおいしい飲み物を作って提供する姿や来場者が来るとすぐに傍によって話し相手をする様子などは、大変参考になりました。
- ミニ講話では若年性認知症の方の話聞くことが出来ました。受講生の皆さんは、「子供たちにも認知症のことを伝えることが大事だ。誰がいつ認知症になるかわからない。その時に慌てずに受け入れられるように周りもしっかりと勉強しよう。」と話し合いました。
- どうやって実現したらよいのか考えあぐねていると、東北福祉大学の矢吹教授から、「みなさんが認知症キャラバンメイトになれば、子どもたちに伝えることができますよ。」というアドバイスをいただきました。また、市民レベルでキャラバンメイトを育成していくことが今後の課題だというお話も伺いました。

認知症カフェ視察研修の効果

参画

- 認知症サポーターのカフェへの参画の様子が、今後のカフェにおける実践活動に大変参考になった

実感

- 認知症の正しい知識を子どもたちに伝えていく重要性を知った

気づき

- 認知症サポーターがキャラバンメイトにステップアップすることで新たな役割ができる

カフェ実習



ご清聴ありがとうございました





2019行政提案型協働モデル事業

認知症サポーター ステップアップ事業 事業報告

2019. 3. 25

認知症を考える会
あいづの種

ステップアップ講座

第1回

【開催日時】令和元年7月13日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症を正しく知る」

認知症介護指導者

第2回

【開催日時】令和元年8月10日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症の人を介護する家族の気持ち」

認知症介護指導者



第3回

【開催日時】令和元年 9月14日(土)

【受講者数】15名

【内容】「健康を考えた美味しい食事」管理栄養士

第4回

【開催日時】令和元年10月12日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症に人を支える専門職・・・言語聴覚士」



第5回

【開催日時】令和元年11月9日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「介護保険法」生活支援コーディネーター

第6回

【開催日時】令和元年12月14日(土) 11:00～12:30

【受講者数】13名

【内容】「認知症の方を地域で支える」社会福祉士

第7回

【開催日時】令和2年1月11日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「認知症と薬」薬剤師

第8回

【開催日時】令和2年2月8日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「認知症になっても大丈夫」精神科医師



ステップアップ講座の効果

つながる

- サポーターとさまざまな専門職とがつながる機会

相互効果

- フラットな関係での対話
- さまざまな職種から捉える認知症

カフェ体験

- サポーター同士の交流の場
- 専門職を交えた意見交換の場
- 当事者と出会う機会

副産物

地域ネットワークボ
ランティア登録

サロンの立ち上げ



認知症高齢者宅を
訪問、周囲に理解
を促すなど積極的
に活動



会津若松市行政提案型協働モデル事業

第3回認知症を考える会あいつの種講演会

「笑顔で生きる」

講師 丹野智文氏

アルツハイマー病などによる認知症は、すぐに進行するわけではありません。それを伝えるには、6年前に診断を受けた私が、今も笑顔で元気に過ごしていることを知ってもらうのが一番です。



「僕、認知症です。」

「ご本人の話聞いて認知症を正しく理解する」

プロフィール

1974年、宮城県生まれ。2013年に認知症と診断される。2014年には、全国の認知症の仲間とともに、国内初の当事者団体「日本認知症ワーキンググループ」を設立。2015年から、不安を持つ認知症の人が、当事者の相談を受ける「おれんじドア」を仙台市内で毎月開催している。

日時

2019年10月17日(木)

午後1時30分～午後3時30分 開場午後1時00分

場所

会津若松市文化センター 文化ホール
(会津若松市城東町14-52)

参加

無料 申込不要
先着順400名

【お問い合わせ先】

認知症を考える会 あいつの種 担当:遠藤(デイスーパービスOASIS2号館内)

Tel:0242-27-5533 fax:0242-27-5550 E-Mail:oasis.2@takeda.or.jp

認知症講演会

【開催日時】

令和2年10月17日(木)

13:30～15:30

【演題】「笑顔で生きる」

【講師】おれんじドア代表
丹野智文氏

【会場】

会津若松市文化センター
文化ホール

【参加者数】430名

丹野氏からのメッセージ

- 「認知症を正しく理解して欲しい」
- 「何でもないように見えるが、実は大きなハンデがあることを理解して欲しい」
- 「たとえ認知症があっても自分のことは自分で決めるといふ当たり前のことを奪わないようにして欲しい」
- 「世間では、認知症になると何もわからなくなる、何もできなくなるという偏見がある。だからと言って完全に払しょくすることはできない。だったら、目の前のたった一人のひとを幸せにしてあげて欲しい」

講演会の効果

関心

- 大勢の市民の方が関心を持って参加してくれた

偏見

- 認知症への偏見に気づいてもらうことができた

安心

- 認知症を正しく理解して備えていくということの大切さ
- 一人一人の安心が安心して暮らせる街づくりに

土曜の音楽カフェ視察研修

【開催日時】令和元年9月8日(土)10:30～18:30

【場所】宮城県仙台市青葉区国見1-19-1

東北福祉大学ステーションキャンパス3階ステーションカフェ

【参加者数】受講者12名、市1名、たねスタッフ2名



視察内容

- 認知症サポーターがどのように認知症カフェの運営に参画しているかを見学させていただきました。カフェは、120名を超える来場者で大変賑やかでした。受講生の皆さんはテーブルに散らばって、現地の認知症サポーターさんと交流したり、当事者や家族との対話を体験したりしました。
- 認知症サポーターさんがこだわりのあるおいしい飲み物を作って提供する姿や来場者が来るとすぐに傍によって話し相手をする様子などは、大変参考になりました。
- ミニ講話では若年性認知症の方の話聞くことが出来ました。受講生の皆さんは、「子供たちにも認知症のことを伝えることが大事だ。誰がいつ認知症になるかわからない。その時に慌てずに受け入れられるように周りもしっかりと勉強しよう。」と話し合いました。
- どうやって実現したらよいのか考えあぐねていると、東北福祉大学の矢吹教授から、「みなさんが認知症キャラバンメイトになれば、子どもたちに伝えることができますよ。」というアドバイスをいただきました。また、市民レベルでキャラバンメイトを育成していくことが今後の課題だというお話も伺いました。

認知症カフェ視察研修の効果

参画

- 認知症サポーターのカフェへの参画の様子が、今後のカフェにおける実践活動に大変参考になった

実感

- 認知症の正しい知識を子どもたちに伝えていく重要性を知った

気づき

- 認知症サポーターがキャラバンメイトにステップアップすることで新たな役割ができる

カフェ実習



ご清聴ありがとうございました





2019行政提案型協働モデル事業

認知症サポーター ステップアップ事業 事業報告

2019. 3. 25

認知症を考える会
あいづの種

ステップアップ講座

第1回

【開催日時】令和元年7月13日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症を正しく知る」

認知症介護指導者

第2回

【開催日時】令和元年8月10日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症の人を介護する家族の気持ち」

認知症介護指導者



第3回

【開催日時】令和元年 9月14日(土)

【受講者数】15名

【内容】「健康を考えた美味しい食事」管理栄養士

第4回

【開催日時】令和元年10月12日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症に人を支える専門職・・・言語聴覚士」



第5回

【開催日時】令和元年11月9日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「介護保険法」生活支援コーディネーター

第6回

【開催日時】令和元年12月14日(土) 11:00～12:30

【受講者数】13名

【内容】「認知症の方を地域で支える」社会福祉士

第7回

【開催日時】令和2年1月11日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「認知症と薬」薬剤師

第8回

【開催日時】令和2年2月8日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「認知症になっても大丈夫」精神科医師



ステップアップ講座の効果

つながる

- サポーターとさまざまな専門職とがつながる機会

相互効果

- フラットな関係での対話
- さまざまな職種から捉える認知症

カフェ体験

- サポーター同士の交流の場
- 専門職を交えた意見交換の場
- 当事者と出会う機会

副産物

地域ネットワークボ
ランティア登録

サロンの立ち上げ



認知症高齢者宅を
訪問、周囲に理解
を促すなど積極的
に活動



会津若松市行政提案型協働モデル事業

第3回認知症を考える会あいつの種講演会

「笑顔で生きる」

講師 丹野智文氏

アルツハイマー病などによる認知症は、すぐに進行するわけではありません。それを伝えるには、6年前に診断を受けた私が、今も笑顔で元気に過ごしていることを知ってもらおうが一番です。



「僕、認知症です。」

「ご本人の話聞いて認知症を正しく理解する」

プロフィール

1974年、宮城県生まれ。2013年に認知症と診断される。2014年には、全国の認知症の仲間とともに、国内初の当事者団体「日本認知症ワーキンググループ」を設立。2015年から、不安を持つ認知症の人が、当事者の相談を受ける「おれんじドア」を仙台市内で毎月開催している。

日時

2019年10月17日(木)

午後1時30分～午後3時30分 開場午後1時00分

場所

会津若松市文化センター 文化ホール
(会津若松市城東町14-52)

参加

無料 申込不要
先着順400名

【お問い合わせ先】

認知症を考える会 あいつの種 担当:遠藤(デイサービスOASIS2号館内)

Tel:0242-27-5533 fax:0242-27-5550 E-Mail:oasis.2@takeda.or.jp

認知症講演会

【開催日時】

令和2年10月17日(木)

13:30～15:30

【演題】「笑顔で生きる」

【講師】おれんじどあ代表
丹野智文氏

【会場】

会津若松市文化センター
文化ホール

【参加者数】430名

丹野氏からのメッセージ

- 「認知症を正しく理解して欲しい」
- 「何でもないように見えるが、実は大きなハンデがあることを理解して欲しい」
- 「たとえ認知症があっても自分のことは自分で決めるという当たり前のことを奪わないようにして欲しい」
- 「世間では、認知症になると何もわからなくなる、何もできなくなるという偏見がある。だからと言って完全に払しょくすることはできない。だったら、目の前のたった一人のひとを幸せにしてあげて欲しい」

講演会の効果

関心

- 大勢の市民の方が関心を持って参加してくれた

偏見

- 認知症への偏見に気づいてもらうことができた

安心

- 認知症を正しく理解して備えていくということの大切さ
- 一人一人の安心が安心して暮らせる街づくりに

土曜の音楽カフェ視察研修

【開催日時】令和元年9月8日(土)10:30～18:30

【場所】宮城県仙台市青葉区国見1-19-1

東北福祉大学ステーションキャンパス3階ステーションカフェ

【参加者数】受講者12名、市1名、たねスタッフ2名



視察内容

- 認知症サポーターがどのように認知症カフェの運営に参画しているかを見学させていただきました。カフェは、120名を超える来場者で大変賑やかでした。受講生の皆さんはテーブルに散らばって、現地の認知症サポーターさんと交流したり、当事者や家族との対話を体験したりしました。
- 認知症サポーターさんがこだわりのあるおいしい飲み物を作って提供する姿や来場者が来るとすぐに傍によって話し相手をする様子などは、大変参考になりました。
- ミニ講話では若年性認知症の方の話聞くことが出来ました。受講生の皆さんは、「子供たちにも認知症のことを伝えることが大事だ。誰がいつ認知症になるかわからない。その時に慌てずに受け入れられるように周りもしっかりと勉強しよう。」と話し合いました。
- どうやって実現したらよいのか考えあぐねていると、東北福祉大学の矢吹教授から、「みなさんが認知症キャラバンメイトになれば、子どもたちに伝えることができますよ。」というアドバイスをいただきました。また、市民レベルでキャラバンメイトを育成していくことが今後の課題だというお話も伺いました。

認知症カフェ視察研修の効果

参画

- 認知症サポーターのカフェへの参画の様子が、今後のカフェにおける実践活動に大変参考になった

実感

- 認知症の正しい知識を子どもたちに伝えていく重要性を知った

気づき

- 認知症サポーターがキャラバンメイトにステップアップすることで新たな役割ができる

カフェ実習



ご清聴ありがとうございました





2019行政提案型協働モデル事業

認知症サポーター ステップアップ事業 事業報告

2019. 3. 25

認知症を考える会
あいづの種

ステップアップ講座

第1回

【開催日時】令和元年7月13日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症を正しく知る」

認知症介護指導者

第2回

【開催日時】令和元年8月10日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症の人を介護する家族の気持ち」

認知症介護指導者



第3回

【開催日時】令和元年 9月14日(土)

【受講者数】15名

【内容】「健康を考えた美味しい食事」管理栄養士

第4回

【開催日時】令和元年10月12日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症に人を支える専門職・・・言語聴覚士」



第5回

【開催日時】令和元年11月9日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「介護保険法」生活支援コーディネーター

第6回

【開催日時】令和元年12月14日(土) 11:00～12:30

【受講者数】13名

【内容】「認知症の方を地域で支える」社会福祉士

第7回

【開催日時】令和2年1月11日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「認知症と薬」薬剤師

第8回

【開催日時】令和2年2月8日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「認知症になっても大丈夫」精神科医師



ステップアップ講座の効果

つながる

- サポーターとさまざまな専門職とがつながる機会

相互効果

- フラットな関係での対話
- さまざまな職種から捉える認知症

カフェ体験

- サポーター同士の交流の場
- 専門職を交えた意見交換の場
- 当事者と出会う機会

副産物

地域ネットワークボ
ランティア登録

サロンの立ち上げ



認知症高齢者宅を
訪問、周囲に理解
を促すなど積極的
に活動



会津若松市行政提案型協働モデル事業

第3回認知症を考える会あいつの種講演会

「笑顔で生きる」

講師 丹野智文氏

アルツハイマー病などによる認知症は、すぐに進行するわけではありません。それを伝えるには、6年前に診断を受けた私が、今も笑顔で元気に過ごしていることを知ってもらうのが一番です。



「僕、認知症です。」

「ご本人の話聞いて認知症を正しく理解する」

プロフィール

1974年、宮城県生まれ。2013年に認知症と診断される。2014年には、全国の認知症の仲間とともに、国内初の当事者団体「日本認知症ワーキンググループ」を設立。2015年から、不安を持つ認知症の人が、当事者の相談を受ける「おれんじドア」を仙台市内で毎月開催している。

日時

2019年10月17日(木)

午後1時30分～午後3時30分 開場午後1時00分

場所

会津若松市文化センター 文化ホール
(会津若松市城東町14-52)

参加

無料 申込不要
先着順400名

【お問い合わせ先】

認知症を考える会 あいつの種 担当:遠藤(デイスーパービスOASIS2号館内)

Tel:0242-27-5533 fax:0242-27-5550 E-Mail:oasis.2@takeda.or.jp

認知症講演会

【開催日時】

令和2年10月17日(木)

13:30～15:30

【演題】「笑顔で生きる」

【講師】おれんじどあ代表
丹野智文氏

【会場】

会津若松市文化センター
文化ホール

【参加者数】430名

丹野氏からのメッセージ

- 「認知症を正しく理解して欲しい」
- 「何でもないように見えるが、実は大きなハンデがあることを理解して欲しい」
- 「たとえ認知症があっても自分のことは自分で決めるという当たり前のことを奪わないようにして欲しい」
- 「世間では、認知症になると何もわからなくなる、何もできなくなるという偏見がある。だからと言って完全に払しょくすることはできない。だったら、目の前のたった一人のひとを幸せにしてあげて欲しい」

講演会の効果

関心

- 大勢の市民の方が関心を持って参加してくれた

偏見

- 認知症への偏見に気づいてもらうことができた

安心

- 認知症を正しく理解して備えていくということの大切さ
- 一人一人の安心が安心して暮らせる街づくりに

土曜の音楽カフェ視察研修

【開催日時】令和元年9月8日(土)10:30～18:30

【場所】宮城県仙台市青葉区国見1-19-1

東北福祉大学ステーションキャンパス3階ステーションカフェ

【参加者数】受講者12名、市1名、たねスタッフ2名



視察内容

- 認知症サポーターがどのように認知症カフェの運営に参画しているかを見学させていただきました。カフェは、120名を超える来場者で大変賑やかでした。受講生の皆さんはテーブルに散らばって、現地の認知症サポーターさんと交流したり、当事者や家族との対話を体験したりしました。
- 認知症サポーターさんがこだわりのあるおいしい飲み物を作って提供する姿や来場者が来るとすぐに傍によって話し相手をする様子などは、大変参考になりました。
- ミニ講話では若年性認知症の方の話聞くことが出来ました。受講生の皆さんは、「子供たちにも認知症のことを伝えることが大事だ。誰がいつ認知症になるかわからない。その時に慌てずに受け入れられるように周りもしっかりと勉強しよう。」と話し合いました。
- どうやって実現したらよいのか考えあぐねていると、東北福祉大学の矢吹教授から、「みなさんが認知症キャラバンメイトになれば、子どもたちに伝えることができますよ。」というアドバイスをいただきました。また、市民レベルでキャラバンメイトを育成していくことが今後の課題だというお話も伺いました。

認知症カフェ視察研修の効果

参画

- 認知症サポーターのカフェへの参画の様子が、今後のカフェにおける実践活動に大変参考になった

実感

- 認知症の正しい知識を子どもたちに伝えていく重要性を知った

気づき

- 認知症サポーターがキャラバンメイトにステップアップすることで新たな役割ができる

カフェ実習



ご清聴ありがとうございました





2019行政提案型協働モデル事業

認知症サポーター ステップアップ事業 事業報告

2019. 3. 25
認知症を考える会
あいづの種

ステップアップ講座

第1回

【開催日時】令和元年7月13日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症を正しく知る」

認知症介護指導者

第2回

【開催日時】令和元年8月10日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症の人を介護する家族の気持ち」

認知症介護指導者



第3回

【開催日時】令和元年 9月14日(土)

【受講者数】15名

【内容】「健康を考えた美味しい食事」管理栄養士

第4回

【開催日時】令和元年10月12日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症に人を支える専門職・・・言語聴覚士」



第5回

【開催日時】令和元年11月9日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「介護保険法」生活支援コーディネーター

第6回

【開催日時】令和元年12月14日(土) 11:00～12:30

【受講者数】13名

【内容】「認知症の方を地域で支える」社会福祉士

第7回

【開催日時】令和2年1月11日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「認知症と薬」薬剤師

第8回

【開催日時】令和2年2月8日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「認知症になっても大丈夫」精神科医師



ステップアップ講座の効果

つながる

- サポーターとさまざまな専門職とがつながる機会

相互効果

- フラットな関係での対話
- さまざまな職種から捉える認知症

カフェ体験

- サポーター同士の交流の場
- 専門職を交えた意見交換の場
- 当事者と出会う機会

副産物

地域ネットワークボ
ランティア登録

サロンの立ち上げ



認知症高齢者宅を
訪問、周囲に理解
を促すなど積極的
に活動



会津若松市行政提案型協働モデル事業

第3回認知症を考える会あいつの種講演会

「笑顔で生きる」

講師 丹野智文氏

アルツハイマー病などによる認知症は、すぐに進行するわけではありません。それを伝えるには、6年前に診断を受けた私が、今も笑顔で元気に過ごしていることを知ってもらうのが一番です。



「僕、認知症です。」

「ご本人の話聞いて認知症を正しく理解する」

プロフィール

1974年、宮城県生まれ。2013年に認知症と診断される。2014年には、全国の認知症の仲間とともに、国内初の当事者団体「日本認知症ワーキンググループ」を設立。2015年から、不安を持つ認知症の人が、当事者の相談を受ける「おれんじドア」を仙台市内で毎月開催している。

日時

2019年10月17日(木)

午後1時30分～午後3時30分 開場午後1時00分

場所

会津若松市文化センター 文化ホール
(会津若松市城東町14-52)

参加

無料 申込不要
先着順400名

【お問い合わせ先】

認知症を考える会 あいつの種 担当:遠藤(デイスーパービスOASIS2号館内)

Tel:0242-27-5533 fax:0242-27-5550 E-Mail:oasis.2@takeda.or.jp

認知症講演会

【開催日時】

令和2年10月17日(木)

13:30～15:30

【演題】「笑顔で生きる」

【講師】おれんじドア代表
丹野智文氏

【会場】

会津若松市文化センター
文化ホール

【参加者数】430名

丹野氏からのメッセージ

- 「認知症を正しく理解して欲しい」
- 「何でもないように見えるが、実は大きなハンデがあることを理解して欲しい」
- 「たとえ認知症があっても自分のことは自分で決めるという当たり前のことを奪わないようにして欲しい」
- 「世間では、認知症になると何もわからなくなる、何もできなくなるという偏見がある。だからと言って完全に払しょくすることはできない。だったら、目の前のたった一人のひとを幸せにしてあげて欲しい」

講演会の効果

関心

- 大勢の市民の方が関心を持って参加してくれた

偏見

- 認知症への偏見に気づいてもらうことができた

安心

- 認知症を正しく理解して備えていくということの大切さ
- 一人一人の安心が安心して暮らせる街づくりに

土曜の音楽カフェ視察研修

【開催日時】令和元年9月8日(土)10:30～18:30

【場所】宮城県仙台市青葉区国見1-19-1

東北福祉大学ステーションキャンパス3階ステーションカフェ

【参加者数】受講者12名、市1名、たねスタッフ2名



視察内容

- 認知症サポーターがどのように認知症カフェの運営に参画しているかを見学させていただきました。カフェは、120名を超える来場者で大変賑やかでした。受講生の皆さんはテーブルに散らばって、現地の認知症サポーターさんと交流したり、当事者や家族との対話を体験したりしました。
- 認知症サポーターさんがこだわりのあるおいしい飲み物を作って提供する姿や来場者が来るとすぐに傍によって話し相手をする様子などは、大変参考になりました。
- ミニ講話では若年性認知症の方の話聞くことが出来ました。受講生の皆さんは、「子供たちにも認知症のことを伝えることが大事だ。誰がいつ認知症になるかわからない。その時に慌てずに受け入れられるように周りもしっかりと勉強しよう。」と話し合いました。
- どうやって実現したらよいのか考えあぐねていると、東北福祉大学の矢吹教授から、「みなさんが認知症キャラバンメイトになれば、子どもたちに伝えることができますよ。」というアドバイスをいただきました。また、市民レベルでキャラバンメイトを育成していくことが今後の課題だというお話も伺いました。

認知症カフェ視察研修の効果

参画

- 認知症サポーターのカフェへの参画の様子が、今後のカフェにおける実践活動に大変参考になった

実感

- 認知症の正しい知識を子どもたちに伝えていく重要性を知った

気づき

- 認知症サポーターがキャラバンメイトにステップアップすることで新たな役割ができる

カフェ実習



ご清聴ありがとうございました





2019行政提案型協働モデル事業

認知症サポーター ステップアップ事業 事業報告

2019. 3. 25

認知症を考える会
あいづの種

ステップアップ講座

第1回

【開催日時】令和元年7月13日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症を正しく知る」

認知症介護指導者

第2回

【開催日時】令和元年8月10日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症の人を介護する家族の気持ち」

認知症介護指導者



第3回

【開催日時】令和元年 9月14日(土)

【受講者数】15名

【内容】「健康を考えた美味しい食事」管理栄養士

第4回

【開催日時】令和元年10月12日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症に人を支える専門職・・・言語聴覚士」



第5回

【開催日時】令和元年11月9日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「介護保険法」生活支援コーディネーター

第6回

【開催日時】令和元年12月14日(土) 11:00～12:30

【受講者数】13名

【内容】「認知症の方を地域で支える」社会福祉士

第7回

【開催日時】令和2年1月11日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「認知症と薬」薬剤師

第8回

【開催日時】令和2年2月8日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「認知症になっても大丈夫」精神科医師



ステップアップ講座の効果

つながる

- サポーターとさまざまな専門職とがつながる機会

相互効果

- フラットな関係での対話
- さまざまな職種から捉える認知症

カフェ体験

- サポーター同士の交流の場
- 専門職を交えた意見交換の場
- 当事者と出会う機会

副産物

地域ネットワークボ
ランティア登録

サロンの立ち上げ



認知症高齢者宅を
訪問、周囲に理解
を促すなど積極的
に活動



会津若松市行政提案型協働モデル事業

第3回認知症を考える会あいつの種講演会

「笑顔で生きる」

講師 丹野智文氏

アルツハイマー病などによる認知症は、すぐに進行するわけではありません。それを伝えるには、6年前に診断を受けた私が、今も笑顔で元気に過ごしていることを知ってもらうのが一番です。



「僕、認知症です。」

「ご本人の話聞いて認知症を正しく理解する」

プロフィール

1974年、宮城県生まれ。2013年に認知症と診断される。2014年には、全国の認知症の仲間とともに、国内初の当事者団体「日本認知症ワーキンググループ」を設立。2015年から、不安を持つ認知症の人が、当事者の相談を受ける「おれんじドア」を仙台市内で毎月開催している。

日時

2019年10月17日(木)

午後1時30分～午後3時30分 開場午後1時00分

場所

会津若松市文化センター 文化ホール
(会津若松市城東町14-52)

参加

無料 申込不要
先着順400名

【お問い合わせ先】

認知症を考える会 あいつの種 担当:遠藤(デイスーパービスOASIS2号館内)

Tel:0242-27-5533 fax:0242-27-5550 E-Mail:oasis.2@takeda.or.jp

認知症講演会

【開催日時】

令和2年10月17日(木)

13:30～15:30

【演題】「笑顔で生きる」

【講師】おれんじドア代表
丹野智文氏

【会場】

会津若松市文化センター
文化ホール

【参加者数】430名

丹野氏からのメッセージ

- 「認知症を正しく理解して欲しい」
- 「何でもないように見えるが、実は大きなハンデがあることを理解して欲しい」
- 「たとえ認知症があっても自分のことは自分で決めるという当たり前のことを奪わないようにして欲しい」
- 「世間では、認知症になると何もわからなくなる、何もできなくなるという偏見がある。だからと言って完全に払しょくすることはできない。だったら、目の前のたった一人のひとを幸せにしてあげて欲しい」

講演会の効果

関心

- 大勢の市民の方が関心を持って参加してくれた

偏見

- 認知症への偏見に気づいてもらうことができた

安心

- 認知症を正しく理解して備えていくということの大切さ
- 一人一人の安心が安心して暮らせる街づくりに

土曜の音楽カフェ視察研修

【開催日時】令和元年9月8日(土)10:30～18:30

【場所】宮城県仙台市青葉区国見1-19-1

東北福祉大学ステーションキャンパス3階ステーションカフェ

【参加者数】受講者12名、市1名、たねスタッフ2名



視察内容

- 認知症サポーターがどのように認知症カフェの運営に参画しているかを見学させていただきました。カフェは、120名を超える来場者で大変賑やかでした。受講生の皆さんはテーブルに散らばって、現地の認知症サポーターさんと交流したり、当事者や家族との対話を体験したりしました。
- 認知症サポーターさんがこだわりのあるおいしい飲み物を作って提供する姿や来場者が来るとすぐに傍によって話し相手をする様子などは、大変参考になりました。
- ミニ講話では若年性認知症の方の話を聞くことが出来ました。受講生の皆さんは、「子供たちにも認知症のことを伝えることが大事だ。誰がいつ認知症になるかわからない。その時に慌てずに受け入れられるように周りもしっかりと勉強しよう。」と話し合いました。
- どうやって実現したらよいのか考えあぐねていると、東北福祉大学の矢吹教授から、「みなさんが認知症キャラバンメイトになれば、子どもたちに伝えることができますよ。」というアドバイスをいただきました。また、市民レベルでキャラバンメイトを育成していくことが今後の課題だというお話も伺いました。

認知症カフェ視察研修の効果

参画

- 認知症サポーターのカフェへの参画の様子が、今後のカフェにおける実践活動に大変参考になった

実感

- 認知症の正しい知識を子どもたちに伝えていく重要性を知った

気づき

- 認知症サポーターがキャラバンメイトにステップアップすることで新たな役割ができる

カフェ実習



ご清聴ありがとうございました





2019行政提案型協働モデル事業

認知症サポーター ステップアップ事業 事業報告

2019. 3. 25

認知症を考える会
あいづの種

ステップアップ講座

第1回

【開催日時】令和元年7月13日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症を正しく知る」

認知症介護指導者

第2回

【開催日時】令和元年8月10日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症の人を介護する家族の気持ち」

認知症介護指導者



第3回

【開催日時】令和元年 9月14日(土)

【受講者数】15名

【内容】「健康を考えた美味しい食事」管理栄養士

第4回

【開催日時】令和元年10月12日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症に人を支える専門職・・・言語聴覚士」



第5回

【開催日時】令和元年11月9日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「介護保険法」生活支援コーディネーター

第6回

【開催日時】令和元年12月14日(土) 11:00～12:30

【受講者数】13名

【内容】「認知症の方を地域で支える」社会福祉士

第7回

【開催日時】令和2年1月11日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「認知症と薬」薬剤師

第8回

【開催日時】令和2年2月8日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「認知症になっても大丈夫」精神科医師



ステップアップ講座の効果

つながる

- サポーターとさまざまな専門職とがつながる機会

相互効果

- フラットな関係での対話
- さまざまな職種から捉える認知症

カフェ体験

- サポーター同士の交流の場
- 専門職を交えた意見交換の場
- 当事者と出会う機会

副産物

地域ネットワークボ
ランティア登録

サロンの立ち上げ



認知症高齢者宅を
訪問、周囲に理解
を促すなど積極的
に活動



会津若松市行政提案型協働モデル事業

第3回認知症を考える会あいつの種講演会

「笑顔で生きる」

講師 丹野智文氏

アルツハイマー病などによる認知症は、すぐに進行するわけではありません。それを伝えるには、6年前に診断を受けた私が、今も笑顔で元気に過ごしていることを知ってもらうのが一番です。



「僕、認知症です。」

「ご本人の話聞いて認知症を正しく理解する」

プロフィール

1974年、宮城県生まれ。2013年に認知症と診断される。2014年には、全国の認知症の仲間とともに、国内初の当事者団体「日本認知症ワーキンググループ」を設立。2015年から、不安を持つ認知症の人が、当事者の相談を受ける「おれんじドア」を仙台市内で毎月開催している。

日時

2019年10月17日(木)

午後1時30分～午後3時30分 開場午後1時00分

場所

会津若松市文化センター 文化ホール
(会津若松市城東町14-52)

参加

無料 申込不要
先着順400名

【お問い合わせ先】

認知症を考える会 あいつの種 担当:遠藤(デイスーパービスOASIS2号館内)

Tel:0242-27-5533 fax:0242-27-5550 E-Mail:oasis.2@takeda.or.jp

認知症講演会

【開催日時】

令和2年10月17日(木)

13:30～15:30

【演題】「笑顔で生きる」

【講師】おれんじどあ代表
丹野智文氏

【会場】

会津若松市文化センター
文化ホール

【参加者数】430名

丹野氏からのメッセージ

- 「認知症を正しく理解して欲しい」
- 「何でもないように見えるが、実は大きなハンデがあることを理解して欲しい」
- 「たとえ認知症があっても自分のことは自分で決めるといふ当たり前のことを奪わないようにして欲しい」
- 「世間では、認知症になると何もわからなくなる、何もできなくなるという偏見がある。だからと言って完全に払しょくすることはできない。だったら、目の前のたった一人のひとを幸せにしてあげて欲しい」

講演会の効果

関心

- 大勢の市民の方が関心を持って参加してくれた

偏見

- 認知症への偏見に気づいてもらうことができた

安心

- 認知症を正しく理解して備えていくということの大切さ
- 一人一人の安心が安心して暮らせる街づくりに

土曜の音楽カフェ視察研修

【開催日時】令和元年9月8日(土)10:30～18:30

【場所】宮城県仙台市青葉区国見1-19-1

東北福祉大学ステーションキャンパス3階ステーションカフェ

【参加者数】受講者12名、市1名、たねスタッフ2名



視察内容

- 認知症サポーターがどのように認知症カフェの運営に参画しているかを見学させていただきました。カフェは、120名を超える来場者で大変賑やかでした。受講生の皆さんはテーブルに散らばって、現地の認知症サポーターさんと交流したり、当事者や家族との対話を体験したりしました。
- 認知症サポーターさんがこだわりのあるおいしい飲み物を作って提供する姿や来場者が来るとすぐに傍によって話し相手をする様子などは、大変参考になりました。
- ミニ講話では若年性認知症の方の話聞くことが出来ました。受講生の皆さんは、「子供たちにも認知症のことを伝えることが大事だ。誰がいつ認知症になるかわからない。その時に慌てずに受け入れられるように周りもしっかりと勉強しよう。」と話し合いました。
- どうやって実現したらよいのか考えあぐねていると、東北福祉大学の矢吹教授から、「みなさんが認知症キャラバンメイトになれば、子どもたちに伝えることができますよ。」というアドバイスをいただきました。また、市民レベルでキャラバンメイトを育成していくことが今後の課題だというお話も伺いました。

認知症カフェ視察研修の効果

参画

- 認知症サポーターのカフェへの参画の様子が、今後のカフェにおける実践活動に大変参考になった

実感

- 認知症の正しい知識を子どもたちに伝えていく重要性を知った

気づき

- 認知症サポーターがキャラバンメイトにステップアップすることで新たな役割ができる

カフェ実習



ご清聴ありがとうございました





2019行政提案型協働モデル事業

認知症サポーター ステップアップ事業 事業報告

2019. 3. 25

認知症を考える会
あいつの種

ステップアップ講座

第1回

【開催日時】令和元年7月13日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症を正しく知る」

認知症介護指導者

第2回

【開催日時】令和元年8月10日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症の人を介護する家族の気持ち」

認知症介護指導者



第3回

【開催日時】令和元年 9月14日(土)

【受講者数】15名

【内容】「健康を考えた美味しい食事」管理栄養士

第4回

【開催日時】令和元年10月12日(土)

【受講者数】15名

【内容】「認知症に人を支える専門職・・・言語聴覚士」



第5回

【開催日時】令和元年11月9日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「介護保険法」生活支援コーディネーター

第6回

【開催日時】令和元年12月14日(土) 11:00～12:30

【受講者数】13名

【内容】「認知症の方を地域で支える」社会福祉士

第7回

【開催日時】令和2年1月11日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「認知症と薬」薬剤師

第8回

【開催日時】令和2年2月8日(土) 11:00～12:30

【受講者数】14名

【内容】「認知症になっても大丈夫」精神科医師



ステップアップ講座の効果

つながる

- サポーターとさまざまな専門職とがつながる機会

相互効果

- フラットな関係での対話
- さまざまな職種から捉える認知症

カフェ体験

- サポーター同士の交流の場
- 専門職を交えた意見交換の場
- 当事者と出会う機会

副産物

地域ネットワークボ
ランティア登録

サロンの立ち上げ



認知症高齢者宅を
訪問、周囲に理解
を促すなど積極的
に活動



会津若松市行政提案型協働モデル事業

第3回認知症を考える会あいつの種講演会

「笑顔で生きる」

講師 丹野智文氏

アルツハイマー病などによる認知症は、すぐに進行するわけではありません。それを伝えるには、6年前に診断を受けた私が、今も笑顔で元気に過ごしていることを知ってもらおうが一番です。



「僕、認知症です。」

「ご本人の話聞いて認知症を正しく理解する」

プロフィール

1974年、宮城県生まれ。2013年に認知症と診断される。2014年には、全国の認知症の仲間とともに、国内初の当事者団体「日本認知症ワーキンググループ」を設立。2015年から、不安を持つ認知症の人が、当事者の相談を受ける「おれんじドア」を仙台市内で毎月開催している。

日時

2019年10月17日(木)

午後1時30分～午後3時30分 開場午後1時00分

場所

会津若松市文化センター 文化ホール
(会津若松市城東町14-52)

参加

無料 申込不要
先着順400名

【お問い合わせ先】

認知症を考える会 あいつの種 担当:遠藤(デイスーパービスOASIS2号館内)

Tel:0242-27-5533 fax:0242-27-5550 E-Mail:oasis.2@takeda.or.jp

認知症講演会

【開催日時】

令和2年10月17日(木)

13:30～15:30

【演題】「笑顔で生きる」

【講師】おれんじどあ代表
丹野智文氏

【会場】

会津若松市文化センター
文化ホール

【参加者数】430名

丹野氏からのメッセージ

- 「認知症を正しく理解して欲しい」
- 「何でもないように見えるが、実は大きなハンデがあることを理解して欲しい」
- 「たとえ認知症があっても自分のことは自分で決めるという当たり前のことを奪わないようにして欲しい」
- 「世間では、認知症になると何もわからなくなる、何もできなくなるという偏見がある。だからと言って完全に払しょくすることはできない。だったら、目の前のたった一人のひとを幸せにしてあげて欲しい」

講演会の効果

関心

- 大勢の市民の方が関心を持って参加してくれた

偏見

- 認知症への偏見に気づいてもらうことができた

安心

- 認知症を正しく理解して備えていくということの大切さ
- 一人一人の安心が安心して暮らせる街づくりに

土曜の音楽カフェ視察研修

【開催日時】令和元年9月8日(土)10:30～18:30

【場所】宮城県仙台市青葉区国見1-19-1

東北福祉大学ステーションキャンパス3階ステーションカフェ

【参加者数】受講者12名、市1名、たねスタッフ2名



視察内容

- 認知症サポーターがどのように認知症カフェの運営に参画しているかを見学させていただきました。カフェは、120名を超える来場者で大変賑やかでした。受講生の皆さんはテーブルに散らばって、現地の認知症サポーターさんと交流したり、当事者や家族との対話を体験したりしました。
- 認知症サポーターさんがこだわりのあるおいしい飲み物を作って提供する姿や来場者が来るとすぐに傍によって話し相手をする様子などは、大変参考になりました。
- ミニ講話では若年性認知症の方の話聞くことが出来ました。受講生の皆さんは、「子供たちにも認知症のことを伝えることが大事だ。誰がいつ認知症になるかわからない。その時に慌てずに受け入れられるように周りもしっかりと勉強しよう。」と話し合いました。
- どうやって実現したらよいのか考えあぐねていると、東北福祉大学の矢吹教授から、「みなさんが認知症キャラバンメイトになれば、子どもたちに伝えることができますよ。」というアドバイスをいただきました。また、市民レベルでキャラバンメイトを育成していくことが今後の課題だというお話も伺いました。

認知症カフェ視察研修の効果

参画

- 認知症サポーターのカフェへの参画の様子が、今後のカフェにおける実践活動に大変参考になった

実感

- 認知症の正しい知識を子どもたちに伝えていく重要性を知った

気づき

- 認知症サポーターがキャラバンメイトにステップアップすることで新たな役割ができる

カフェ実習



ご清聴ありがとうございました

